



Nomura Research Institute

2023年5月8日

株式会社野村総合研究所

## NRI グループの新たなマテリアリティを特定

～「持続可能な未来社会づくり」と「NRI グループの成長戦略実現」を一体的に追求～

株式会社野村総合研究所（以下「NRI」）は、「NRI Group Vision 2030」（2030年に向けたNRIグループの経営ビジョン、以下「V2030」）の策定に合わせて、従来のマテリアリティを改定し、「創出する価値」、「価値を生み出す資本」、「経営基盤（ESG）」の3層で計8つのマテリアリティを特定しました。

NRIグループは、コーポレート・ステートメントとして「Dream up the future. 未来創発」を掲げ、「新しい社会のパラダイムを洞察し、その実現を担う」、「お客様の信頼を得て、お客様とともに栄える」ことを使命としています。さらに、「夢と可能性に満ち、豊かさを実感する、活力ある社会」、「人々の英知がつながり、環境にやさしい持続可能な社会」、「強くてしなやかな、安全で安心に満ちた社会」の3つをNRIグループが“創発する社会”とし、企業理念の中に位置づけています。

2023年4月に発表したV2030においては、「持続可能な未来社会づくり」と「NRIグループの成長戦略実現」を一体的に追求していくことを掲げています。これに基づき、2030年に向けて重点的に取り組むテーマとして、「創出する価値」、「価値を生み出す資本」、「経営基盤（ESG：環境・社会・企業統治）」の3層で計8つのマテリアリティを特定し、NRIグループのサステナビリティ基本方針の中に位置づけています（図1）。

特定にあたっては、関連する国際基準やガイドライン、ESG評価機関からの要請、企業理念・成長戦略との整合、社外役員・有識者の意見等を参考に、自社への影響（財務面）とステークホルダーからの期待・要請（環境・社会への影響）の両方の視点から検討しました。なお、マテリアリティとして掲げたテーマの推進にあたっては、2030年に目指す姿（目標）を示すとともに、中期経営計画（2023-2025）において重要指標（マテリアリティ指標）とその目標値を定め、着実な達成を図っていきます（図2）。

図 1：NRI グループのサステナビリティ基本方針

マテリアリティ：「持続可能な未来社会づくり」と「NRIグループの成長戦略実現」のために2030年に向けて重点的に取り組むテーマ



創出する価値	2030年にめざす姿 (目標)	主な取組み
 デジタル社会資本の充実を通じた <b>活力ある未来社会の共創</b>	優れた人的資本・知的資本と、そこから価値を生み出すための <b>デジタル社会資本が充実</b> し、あらゆるひとが豊かに暮らす、活力ある社会の実現に貢献している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスモデル変革               <ul style="list-style-type: none"> <li>- DXコンサル、アナリティクス</li> <li>- ソーシャルDX (マイナンバー活用、地方創生など)</li> <li>- D2C、金融デジタル事業</li> </ul> </li> <li>・社会・制度提言、情報発信 など</li> </ul>
 社会資源の有効活用を通じた <b>最適社会の共創</b>	ビジネスプラットフォームの共同利用、データによるリアル空間の可視化や予測等を通じて、 <b>社会資源 (人材・公共財・知的財産等を含む) の有効活用や自然資源の循環等</b> 、スマートな社会の実現に貢献している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスプロセス変革               <ul style="list-style-type: none"> <li>- 戦略/業務/システムコンサル</li> <li>- バリューチェーンDX (CO<sub>2</sub>可視化、サーキュラーエコノミー-PF創出)</li> </ul> </li> <li>・ビジネスPFによる共同利用促進               <ul style="list-style-type: none"> <li>- STAR, BESTWAY など</li> </ul> </li> </ul>
 社会インフラの高度化を通じた <b>安全安心社会の共創</b>	社会インフラやデータが、 <b>災害やサイバーリスクに強く高度で安定稼働するIT基盤</b> によって守られ、あらゆるひとが安心して様々なデジタルサービスを楽しむことができる、強くしなやかな社会の実現に貢献している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な社会インフラ実現</li> <li>・ITインフラ変革               <ul style="list-style-type: none"> <li>- セキュリティ、クラウドサービス</li> </ul> </li> <li>・安定サービス運用</li> <li>・防災・減災政策提言・復興支援 など</li> </ul>

価値を生み出す資本		2030年にめざす姿 (目標)	主な取組み
 <p>多様なプロフェッショナルの 挑戦・成長による <b>人的資本の拡充</b></p>	<p>高い専門性や多様な価値観を持つ人材が集い、プロフェッショナルとして自律的に挑戦・成長し続ける場を生み出し、価値創出につながっている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの成長機会の拡大</li> <li>ダイバーシティ&amp;インクルージョンの定着</li> <li>成長ストーリーを実現するケイパビリティの増強など</li> </ul>	
 <p>個々の知を組織力に昇華させる <b>知的資本の創出・蓄積</b></p>	<p>個々の知を組織力に昇華させる優れた<b>知的資本 (ビジネスモデル・ブランド・ケイパビリティ)</b>を創出・蓄積し、価値創出につながっている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスモデルの進化 (ソフトウェア資産の拡充等)</li> <li>進化し続けるブランドの形成 (情報発信のコンテンツ充実等)</li> <li>事業展開を支える組織ケイパビリティの強化 (品質監理、生産革新等) など</li> </ul>	
経営基盤 (ESG)		2030年にめざす姿 (目標)	主な取組み
 <p>ビジネスパートナーとの協働による <b>地球環境への貢献</b></p>	<p>再生可能エネルギーのさらなる高度利用を進めるとともに、Scope3を視野にビジネスパートナーと協働しながら、<b>自然資本への配慮と持続可能な地球環境づくりに貢献している</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>温室効果ガス排出量削減・再生可能エネルギー利用の促進 (Scope1+2)</li> <li>Scope3における温室効果ガス排出量削減に向けた対応 など</li> </ul>	
 <p>ステークホルダーとの関係強化による <b>社会的責任の遂行</b></p>	<p>ステークホルダー (ビジネスパートナー、従業員、社会など) との良好な関係を形成し、健全な雇用・労使関係、人権への配慮等、<b>サプライチェーン全体で社会的責任を遂行している</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員のウェルビーイング</li> <li>人権・労働慣行に関する取組み (AI倫理など含む)</li> <li>パートナー企業との協力関係強化、ステークホルダーやコミュニティとの関係形成 など</li> </ul>	
 <p>戦略的なリスクコントロールを実現する <b>ガバナンスの高度化</b></p>	<p><b>グループ・グローバル全体で長期視点のリスクコントロールを実現</b>するため、戦略に応じたリスクテイクも含む、バランスの取れたガバナンスに取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ全体でのガバナンスと内部統制システムの整備・運用</li> <li>統合リスク管理 (ERM)</li> <li>品質監理、情報セキュリティ管理の強化</li> <li>情報開示促進と透明性向上</li> <li>コンプライアンスの徹底 など</li> </ul>	

## 持続可能な未来社会づくりとNRIグループの成長戦略は一体

### 2030年のNRIグループの姿

経営とテクノロジーの融合で時代を先駆け、DXの先にある豊かさを洞察し、デジタル社会資本で世界をダイナミックに変革する存在へ

#### 創出する価値



活力ある未来社会の共創

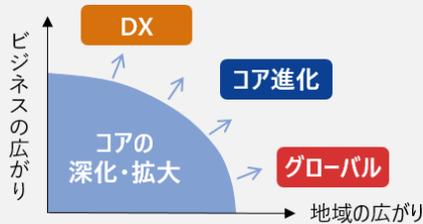


最適社会の共創



安全安心社会の共創

#### 成長ストーリー



#### 数値イメージ

売上	1兆円超
うち海外	2,500億円超
営業利益率	20%以上

#### 価値を生み出す資本



人的資本の拡充



知的資本の創出・蓄積

#### 経営基盤 (ESG)



地球環境への貢献



社会的責任の遂行



ガバナンスの高度化

図 2：中期経営計画におけるマテリアリティ指標と目標値

マテリアリティ		重要指標	2025年度目標
創出する価値	デジタル社会資本の充実を通じた活力ある未来社会の共創	業界・社会変革を実現するDX2.0/3.0総投資額・施策額	630億円 <sup>※1</sup>
	社会資源の有効活用を通じた最適社会の共創	最適社会に貢献するビジネスプラットフォーム売上高	1,410億円
	社会インフラの高度化を通じた安全安心社会の共創	強くしてしなやかな社会を支える安全安心関連売上高 <sup>※2</sup>	2,160億円
		価値共創共感度 <sup>※3</sup> (国内グループ)	70%
価値を生み出す資本	多様なプロフェッショナルの挑戦・成長による人的資本の拡充	従業員エンゲージメント (NRI籍) の総合スコア 女性への機会付与率 <sup>※4</sup> (NRI単体)	総合スコア：70以上継続 機会付与率：17%
	個々の知を組織力に昇華させる知的資本の創出・蓄積	知的資本創出・蓄積のための投資額	410億円 <sup>※1</sup>
経営基盤 (ESG)	ビジネスパートナーとの協働による地球環境への貢献	温室効果ガス排出量削減率・再生可能エネルギー利用率 (基準年：2019年)	2030年度目標 <sup>※5</sup> Scope1+2：ネットゼロ Scope3：30%削減 再エネ利用率：100%
	ステークホルダーとの関係強化による社会的責任の遂行	「NRIグループビジネスパートナー行動規範」 <sup>※6</sup> への同意または同等規範の保有率 <sup>※7</sup>	国内グループ 90% (参考：グローバル 80%)
	戦略的なリスクコントロールを実現するガバナンスの高度化	重大なリスクの発現件数 (規制当局への報告またはそれに準ずるNRIグループ責の事案)	0件
		外部評価指標 DJSI World	選定継続

※1 中期経営計画 (2023-2025) 期間の累計値

※2 内部取引を含む

※3 「価値共創」や「3つの社会価値」の概念に強く共感する社員の割合

- ※4 プロジェクトや事業における責任者の女性比率
- ※5 Scope1+2 の排出量を 97%削減、残余排出量は中和化
- ※6 環境・人権等を含む
- ※7 システム開発委託先など、NRI グループの調達先企業における同意または同等規範保有率

これからも NRI グループは、上記 8 つのマテリアリティに取り組みながら、さまざまなステークホルダーの皆さまと共に新たな価値を創造し、サステナブルな社会の創出に貢献していきます。

**【お知らせに関するお問い合わせ】**

株式会社野村総合研究所 コーポレートコミュニケーション部 玉岡  
TEL : 03-5877-7100 E-mail : kouhou@nri.co.jp

**【本件に関するお問い合わせ】**

株式会社野村総合研究所 サステナビリティ推進部 伊吹、寺田、深澤  
E-mail : 41sustainability@nri.co.jp

**【ご参考】**

■NRI Group Vision 2030 については、以下のサイトをご覧ください。

[https://ir.nri.com/jp/ir/library/financial/main/06/teaserItems1/01/linkList/0/link/20230427\\_mediumtermmanagementplan.pdf](https://ir.nri.com/jp/ir/library/financial/main/06/teaserItems1/01/linkList/0/link/20230427_mediumtermmanagementplan.pdf)

■NRI グループのサステナビリティに関する取り組みをご紹介するサイト等

- ・ウェブサイト <https://www.nri.com/jp/sustainability>
- ・統合レポート <https://ir.nri.com/jp/ir/library/report.html>
- ・ESG データブック [https://www.nri.com/jp/sustainability/library/back\\_number](https://www.nri.com/jp/sustainability/library/back_number)
- ・サステナビリティブック [https://www.nri.com/jp/sustainability/library/back\\_number](https://www.nri.com/jp/sustainability/library/back_number)